

第 18 回基準諮問会議

2013年7月16日、財務会計基準機構（FASF）において第18回基準諮問会議（議長 野崎邦夫 住友化学㈱常務執行役員）を開催し、審議が行われた。それぞれの詳細な内容については、財務会計基準機構ホームページ（<https://www.asb.or.jp/>）にて「議事概要」、「議事要旨」（会員限定）等を公開していますので、ご覧ください。

（報告事項）

1. 「企業会計基準等の開発に係る適正手続に関する規則」の制定について

財務会計基準機構の理事会で新たに定められた「企業会計基準等の開発に係る適正手続に関する規則」について説明が行われた。当規則は、企業会計基準委員会（ASBJ）の基準開発における適正手続（デュー・プロセス）を定めるものである。

（審議事項）

2. IFRS のエンドースメント手続について

小賀坂 ASBJ 副委員長より、企業会計審議会より公表された「国際会計基準（IFRS）への対応のあり方に関する当面の方針」を踏まえ、ASBJ が実施する IFRS のエンドースメント手続に関する計画案の概要について説明が行われ、意見交換が行われた。

3. テーマ提言について

新規テーマについて、それぞれの対応について審議を行った。

(1) 第 16 回、第 17 回基準諮問会議における提案

① 会計基準レベル

「継続企業の前提が成立していない状況で適用する会計基準の開発」については、特別目的の財務諸表の監査に関する企業会計審議会の結論が出た段階で検討を行うこととなった。

② 実務対応レベル

「繰延税金資産の回収可能性（JICPA 監査委員会報告第 66 号関連）」については、ASBJ の会計基準、適用指針と JICPA の監査に関する実務指針の役割分担、現状の取扱いを変更した場合に生じる影響等について、ASBJ に調査を依頼することとなった。

「リストラクチャリングに関連する引当金」及び「早期割増退職金の会計処理」については、引当金全体のコンバージェンスの議論と関連づけて検討を行うことは IASB の検討状況を考えると難しいという点では一致したものの、ばらつきを抑えるニーズは強いという意見が聞かれる一

方で、引当金全体の中で議論すべき問題であり現状で着手すべきではない等の意見が聞かれたため、会計基準等の開発が可能であるか否かについて ASBJ に調査・検討を依頼することとなった。

また、「ポイント引当金」については、保留するテーマとして取り扱うこととなった。

(2) 第 18 回基準諮問会議における提案

「後発事象」については、現在検討を中断しているものの ASBJ の審議中のテーマであるため、次回の基準諮問会議で ASBJ における状況の報告を受けることとなった。また、「完全親会社が完全子会社に無対価会社分割で事業を移転する場合の会計処理」及び「『企業結合に関する会計基準』に係る条件付取得対価の取扱い」については、実務対応専門委員会に新規テーマの評価を依頼することとなった。

4. 企業会計基準委員会の最近の活動状況について

西川 ASBJ 委員長より、ASBJ の最近の活動状況についての報告が行われ、概念フレームワークに関して意見交換が行われた。